

## 1 殿堂入りされる方



## ○伊達 公子 (だて きみこ)

1970 (昭和45) 年9月28日生 47歳

京都市上京区出身。

京都市北区にあるテニスクラブ「セブンスリー」でテニスに初めて触れ、その後山科区のテニスクラブ「四ノ宮テニスクラブ」で練習を積む。

高校卒業後の1989年にプロ転向し、世界4大会をはじめ、多くの国際大会で素晴らしい成績を残す。

1996年にいったん引退するものの、2008年に若い選手へ刺激を与えるため現役復帰。

現役復帰後も世界の舞台で活躍し、2017年現役引退。

エステティックTBC所属



## ○柱谷 哲二 (はしらたに てつじ)

1964 (昭和39) 年7月15日生 53歳

京都市右京区出身、花園小学校、双ヶ丘中学校、京都商業高校（現京都学園高校）卒業。

Jリーグ創成期にヴェルディ川崎（現東京ヴェルディ）のディフェンダーとしてチームの要となる活躍をした。Jリーグベストイレブンを3回受賞。

日本代表でもキャプテンを長く務め、72試合に出場。1993年には、アメリカワールドカップ出場を目前に逃すこととなった「ドーハの悲劇」をキャプテンとして経験。

現役引退後は、サッカー解説者などとしても活躍する。



## ○平尾 誠二 (ひらお せいじ)

1963 (昭和38) 年1月21日 ~

2016 (平成28) 年10月20日 享年53歳

京都市南区出身。

陶化中学校でラグビーをはじめ、平成24年度に京都スポーツの殿堂入りされた山口良治氏の誘いで伏見工業高校に入学し指導を受ける。その後、同志社大学で大学選手権3連覇、神戸製鋼で日本選手権7連覇の原動力として活躍する。

卓越したプレーと端正な顔立ちから「ミスター・ラグビー」と呼ばれ、日本代表としてワールドカップに3度出場。

引退後は最年少で日本代表監督に就任したほか、神戸製鋼の監督などを務めた。

## 2 京都スポーツの殿堂委員会委員

(敬省略, 五十音順)

| 氏名            | 役職等                    |
|---------------|------------------------|
| 内田 昌一 (委員長)   | 公益財団法人京都市体育協会会長        |
| 阪田 忠司         | 前京都市小学校スポーツ連盟会長        |
| 寺井 友秀         | 日本放送協会京都放送局局長          |
| 永島 宣彦         | 株式会社京都新聞社代表取締役社長       |
| 細井 俊介         | 株式会社京都放送代表取締役社長        |
| 松永 敬子         | 龍谷大学経営学部スポーツサイエンスコース教授 |
| 水野 加余子        | 京都女性スポーツの会会長           |
| 森田 美千代        | 京都障害者スポーツ振興会副会長        |
| 横山 勝彦 (委員長代理) | 同志社大学スポーツ健康科学部教授       |

## 3 参考 (これまでに殿堂入りされた方及び団体)

### (1) 個人 (18名)

- 平成22年度 吉田義男氏 (野球)  
衣笠祥雄氏 (野球)  
朝原宣治氏 (陸上)
- 平成23年度 水野彌一氏 (アメリカンフットボール指導者)  
釜本邦茂氏 (サッカー)
- 平成24年度 山口良治氏 (ラグビー指導者)  
奥野史子氏 (シンクロナイズドスイミング)
- 平成25年度 藤田信之氏 (陸上指導者)  
坂田好弘氏 (ラグビー)
- 平成26年度 桧山進次郎氏 (野球)  
早狩実紀氏 (陸上)  
大村加奈子氏 (バレーボール)
- 平成27年度 佐野優子氏 (バレーボール)  
田本博子氏 (ソフトボール)  
作本信夫雄氏 (バスケットボール指導者)
- 平成28年度 太田雄貴氏 (フェンシング)  
寒川進氏 (障がい者陸上)  
野口みずき氏 (陸上)

### (2) 団体特別表彰 (3団体)

- 平成22年度 財団法人京都市体育協会  
京都市体育振興会連合会
- 平成23年度 皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝 歴代京都府代表チーム